

坂祝町地域学校安全サポートチーム推進協議会(坂祝町)

～安全・安心な町 坂祝町をめざして～

【団体のプロフィール】

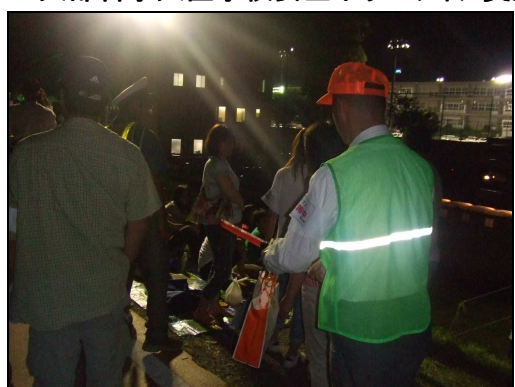
代表者	会長 青村 建一
結成	平成13年9月1日から
活動人数	(結成当時)20人 (平成20年6月末現在)43人
メンバー構成	地域安全指導員12人 ・青少年育成推進員10人 ・小中PTA関係者14人・ 学校担当者2人 ・行政担当者5人



(H19文部科学大臣学校安全ボランティア奨励賞受賞)



(合同サポート活動による登下校の見守り)



(さかほぎ夏まつりの夜間見守り活動)



(所轄警察と連携を図り、防犯教室を実施)

【活動のきっかけ】

- 平成13年、全国的に子ども達が被害に遭う各種事件・事故が全国的にクローズアップされてきた。坂祝町内では、幸い大きな事件・事故が起きてはいなかったが、不審者の出没回数が増え、確認されるようになり、PTAや学校関係者からも防犯の強化について話題がでるようになった。時を同じくして、町の議会でも防犯に関わる質疑もあったこともあり、県が募集していた地域・学校安全サポートモデル事業に応募し、坂祝町としてその指定を受けて具体的な組織づくり、子どもの見守り活動を行うこととした。
- 設立当時は、「地域安全指導員」と「青少年育成推進員」の計20名で発足したが、平成15年4月には小学校PTAが、平成16年4月には中学校PTAが加わり、会員が増加した。
- また、平成15年4月には、坂祝町老人クラブ連合会が協力団体として加わり、250名の方が「シニア見守り隊」として活動に参加するようになった。平成18年4月には、防災ボランティア団体「なんてんの会」も協力団体として加わり、子どもの見守り活動が盛んになっている。

【活動を始める際に用意したもの、最初の相談先】

用 意 し た も の	<p><子どもの見守り活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サポーターユニホーム一式(帽子・夏服・冬服)【町で負担(県からの補助も含む)】 ・ 啓発のぼり旗、横断幕 【町で負担 (県からの補助も含む)】
最 初 の 相 談 先	<p><子どもの見守り活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会長になっていただいた方が、警察OBということもあって、地元の交番や加茂警察署に相談した。

【活動区域、活動内容】

活 動 区 域	<p>坂祝町内全域(1小1中の校下であるため町内全てが活動区域)</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 主に小中学生の通学路を中心に、見守り活動を実施している。 ※ 駅周辺や以前不審者が出没した場所も重点的に見守りしている。
活 動 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 啓発横断幕、のぼり旗の設置し、学期毎に更新している。 ・ 「防犯パトロール実施中」の車用ステッカーの作成し、会員などに配布し、パトロール活動に取り組む。【随時実施】 ・ 登下校時にあわせ、子どもの見守り活動を平日毎日実施。 また、毎月第一月曜日を「坂祝町サポート活動の日」として定め、より一層の活動参加を呼びかけている。【10~20人体制。サポート活動の日は、約50人が参加】 ・ 年3回(各学期1回ずつ)、合同サポート活動を実施。 子どもたちの登下校の見守りを行うと共に、子ども達と一緒に登下校する中で、危険箇所等をチェック。【5~10人体制】 ・ 夏祭り(夜間)における子どもの見守り活動の実施。 ・ 町民祭りにおける啓発活動(幼稚園児・保育園児による「ちびっこ警察」)の実施 ・ 所轄警察署と連携し、幼稚園や保育園、小学校における防犯教室の実施。【それぞれ年1回】 ・ 小学校と連携を図り、標語づくり(平成19年度から募集)や啓発紙芝居づくり(現在2種類作成)を実施。



(幼稚園や保育園、小学校での防犯教室)



(町民まつりにおける啓発活動【ちびっこ警察】)

【活動を継続的に行うために工夫していること】

- ・ 無理に新たな組織を立ち上げたり、大きくするのではなく、既存の組織や団体を生かすようにしている。また、「進んで防犯ボランティアに取り組みたい。」という人を積極的に取り入れる。
- ・ 行政として、最低限の予算は組み、統一した防犯ユニホームや帽子、啓発用具を準備する。
- ・ 坂祝町総務課と教育委員会、交通安全協会、青少年育成等との連携を図り、より効果的な活動を行う。
- ・ 町の全世帯に配布する行事カレンダーに見守り活動日を位置づけている。また、広報や防犯通信を発行し、活動内容を全町民に紹介している。
- ・ 幼稚園や保育園、小中学校の行事の中に防犯に関わる行事を位置づけ、園児や児童、生徒の防犯意識も日頃から高めている。
また、毎年、家庭教育学級においてもセルフディフェンス(いじめやおどし、不審者・連れ去り、勧誘等の暴力から自分で自分を護ることを教えるプログラム)やCAP(子どもへの暴力防止プログラム)等を実施し、親子で受講できるように工夫し、保護者の防犯意識も高めている。

【これから活動を始めるボランティアの皆さんへのアドバイス】

- ・ 地域の中には、防犯に対して専門的な知識をもった方や意欲をもった方がお見えになります。その方々をどう発掘し、どのように生かしていくかがポイントです。坂祝町では、協議会長が中心となり、警察と連携をとりながら、協議会運営を行っていることが有効に働いています。
- ・ まわりには、「防犯」だけでなく、「交通安全」や「青少年育成」、「幼小中PTA」など、子ども達の健やかな成長を願う各種団体がたくさんあります。細かな活動に違いはありますが、「子ども達は地域の宝。安全・安心な町づくり」等のねらいは同じです。ですから、共に手を取り合い、互いの活動を尊重しあって協力して活動をすすめていくことが大切だと思います。
- ・ 行政と学校、サポートチーム、保護者等の協力・連絡体制も重要です。日頃から互いに連絡し合える組織にしなくてははいけません。坂祝町では、メール配信システムを有効に使い、近隣市町村との情報共有にも努めています。
- ・ 今までの活動の成果として、本年度も、150名を超える保護者の方が進んでサポート活動に参加したいと手を挙げています。現在、町内全体で子どもの見守り活動を進めていこうという気運が高まっています。究極には、一部の役や係をもっている人のみが活動を行うのではなく、地域住民全員がサポート活動に協力できる町づくりにしていくことが理想だと思います。そのためにも、活動内容を広報や防犯通信等で積極的に町民に紹介していくことも大切だと思います。